

様式 2

平成 27 年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）
実施報告書

1 調査研究校の基礎情報

調査研究実施校名	徳島市富田中学校	
校長名	(ふりがな) 氏名	まつもと けんじ 松本 賢治
連絡担当者	職名 (ふりがな) 氏名 電話番号	主幹教諭 はやし よしかつ 林 義勝 学校 (088-623-3737)

2 調査研究校の状況（平成 28 年 1 月 1 日現在）

常勤教員数	32人	うち、学級担任外教員数(16人)
再任用短時間勤務教員数	1人	※週3日勤務 1人
非常勤教員数	0人	
学級数	16学級	
2年目教員数	1人	
3年目教員数	1人	
初任者の属性等 (所属・校務等)	初任者(A)	1年3組担任 社会科担当 男子バスケットボール部顧問 環境教育 交通安全教育(学年)
	初任者(B)	2学年副担任 英語科担当 女子バスケットボール部顧問 掲示 国際理解教育(学年)
指導教員の属性等 (所属・校務等)	①指導教員(総括担当)	生徒指導主事 数学科担当
	○初任者Aの	
	②指導教員(授業研修担当)	2学年副担任 社会科担当 研修主任 道德教育推進教師
	③指導教員(一般研修担当)	教務主任 国語科担当
	○初任者Bの	
	④指導教員(授業研修担当)	1年2組担任 英語科担当 国際理解教育 学力向上推進員
	⑤指導教員(一般研修担当)	教務主任 国語科担当

3 指導体制等

3-A) 校内の指導体制

(1) 役割

職名等	役割分担
校長	<ul style="list-style-type: none"> ○初任者研修推進の総括 ○初任者研修に係る校務の決定 ○初任者研修推進委員会の委員 ○一般研修や授業研修の指導及び助言
教頭	<ul style="list-style-type: none"> ○初任者研修の推進状況の把握と関係者への指導及び助言 ○校内の連携体制の確立 ○初任者研修推進委員会の委員 ○一般研修や授業研修の指導及び助言
指導教員（総括担当）	<ul style="list-style-type: none"> ○徳島県教育委員会，徳島市教育委員会との連絡・調整 ○初任者研修全体のコーディネート ○他の指導教員（授業研修担当・一般研修担当）と連携して初任者研修の計画の立案・調整・記録 ○校内の教職員との連絡・調整 ○初任者研修推進委員会の実施責任者
指導教員 （授業研修担当）	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研修のコーディネート ○初任者研修推進委員会の委員 ○授業研修の年間計画の作成，指導，記録
指導教員 （一般研修担当）	<ul style="list-style-type: none"> ○一般研修のコーディネート ○初任者研修推進委員会の委員 ○一般研修の年間計画の作成，指導，記録
学年主任	<ul style="list-style-type: none"> ○学年内の指導協力体制の確立 ○初任者への指導及び助言と初任者の実践に対する評価 ○初任者研修推進委員会の委員
その他の主任・主事	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研修や一般研修の指導及び助言 ○初任者研修推進委員会の委員
その他の教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導及び助言 ○各自の経験に基づいた指導及び助言等

(2) 初任者研修推進委員会

- ①毎月1回、企画委員会後に開催し、指導教員（総括担当）が主宰する。
- ②構成員は校長、教頭、主幹教諭(生徒指導主事)、教務主任、校内指導教員、人権教育主事、研修主任、学年主任であり、必要に応じて、学力向上推進員、教科主任、特別支援教育コーディネーターが参加する。
- ③指導教員（総括担当・授業研修担当・一般研修担当）、各学年主任から初任者の現状の聞き取りを行い、進歩状況の確認、課題の整理、今後の予定、次への取り組みの方向性を確認し、現状を把握する。

(3) 若手教員研修会（若葉の会、校内初任者研修会）

①若葉の会

- 1学期に2回、2学期に2回実施する。
- 指導教員（総括担当）が主宰し、校長、教頭、主幹教諭を講師に迎え、学級経営、人権教育、進路指導、生徒指導について、教育技術の継承や指導を行う。課題や悩みについて、率直に相談や話し合いをし、教師力の向上を図る。



②校内初任者研修会

- 1学期に1回、2学期に2回、3学期に1回実施する。
- 指導教員（総括担当）が主宰し、初任者のみの研修を実施する。
- 校長を講師に迎え、初任者研修の意義について指導し、課題や悩みに対する相談や話し合いを通して、教師力の向上を図る。
- チーム学校の観点から、学校事務職員（主任主事）を講師に迎え、学校教育事務について研修を実施する。
- 元児童自立支援施設職員を講師に迎え、長年勤務した経験から、子どもとの信頼関係の構築、自立支援をしていくための手立てや関係諸機関との関わりを学び、今後、教員としてのスタンスや生徒との関わり方を研修する。
- 小・中学校の連携を図り、校区内小学校6年生の道徳の授業参観をすることで、きめ細かい指導方法を研修し、道徳の研究授業に生かせるように実施する。
- 効果的な短学活の実践について、参観、研修を実施する。



(4) その他特に配慮した指導体制

- ①校内指導体制については、2学期始めに、全教職員が初任者に関わりながら、個々の教師力を向上させる調査研究であることを再確認する。
- ②1学期は指導教員（一般研修担当）が中心に一般研修を進めていたが、2学期より、他の教職員、外部の講師による、より実践的な一般研修を実施する。

3-B) 初任者の勤務内容等における配慮事項

- ①校務分掌において、負担過重とならないように担当させる。
- ②校外研修が予定されている日は、授業や研修を入れない。
- ③常に、その時々課題を研究していくための支援に努める。

4 調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 (初任者研修に係る取組状況の記録)	実施状況 (徳島県教育委員会実施分)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・4/23 第1回初任者研修推進委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・4/30 調査研究校「調査研究事業実施計画書」提出
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・5/14 第2回初任者研修推進委員会 ・5/28 第1回校内初任者研修会 (初任者研修の意義) 講師 徳島市富田中学校校長 	<ul style="list-style-type: none"> ・5/19 第1回指導教員(総括担当)検討会議 ・5/29 第1回連絡協議会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・6/11 第3回初任者研修推進委員会 ・6/23 初任者B 第1回研究授業・授業研究会(英語科) ・6/25 第1回校内研修 「ビジネスマナーの基礎」 講師 株式会社阿波銀行営業推進部 お客さまサポートセンター職員 <div data-bbox="300 1350 689 1641" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・6/30 第2回校内研修 「心肺蘇生法, AEDの使用法」 講師 徳島東消防署員 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・7/ 3 第4回初任者研修推進委員会 ・7/ 6 第1回若葉の会 「学級経営, 教科指導, 生徒指導等」 講師 徳島市富田中学校校長 ・7/ 8 初任者A 第1回研究授業・授業研究会(社会科) 	<ul style="list-style-type: none"> ・7/14 第1回学校訪問

	<ul style="list-style-type: none"> 7/27 第3回校内研修①「色覚特性」 講師 徳島県立徳島視覚支援学校教諭 7/29 第2回若葉の会「生徒指導」 講師 徳島市富田中学校主幹教諭 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 8/ 8 第3回校内研修②「色覚特性」 講師 徳島県立徳島視覚支援学校教諭 8/28 第3回若葉の会「人権教育」 講師 徳島市富田中学校教頭 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> 9/10 第5回初任者研修推進委員会 9/17 第4回校内研修「いじめ防止」 資料「いじめをなくすために（徳島市教育委員会 教師用指導資料）」 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 10/14 第6回初任者研修推進委員会 10/29 初任者A 第2回研究授業・授業研究会（社会科） 「ユニバーサル・デザインの授業」 講師 徳島県立みなと高等学園教諭 	<ul style="list-style-type: none"> 10/27 先進校視察（静岡県磐田市） 磐田市立城山中学校 
11月	<ul style="list-style-type: none"> 11/4～12/22 第5回校内研修 「学力向上・授業力向上のための授業参観」 11/ 5 第7回初任者研修推進委員会 11/ 5 初任者AB「第3回研究授業（道徳）のための研修会①」 講師 徳島市教育委員会 学校教育課人権教育係長 11/17 初任者B 第2回研究授業・授業研究会（英語科） 講師 阿南市立椿町中学校教頭 	<ul style="list-style-type: none"> 11/ 4 「視察報告書」提出 11/11 第2回学校訪問  

	<ul style="list-style-type: none"> 11/26 第2回校内初任者研修会 「学校教育事務」 講師 徳島市富田中学校主任主事 11/30 第3回校内初任者研修会 「子どもの思いと向きあって」 講師 (児童自立支援施設) 元徳島県立徳島学院課長 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> 12/ 2 初任者B 参観授業 徳島市富田中学校教諭 「2年次授業力向上研修 英語科研究授業」 講師 京都外国語大学教授  <ul style="list-style-type: none"> 12/ 3 第8回初任者研修推進委員会 12/11 第4回若葉の会「進路指導」 講師 徳島市富田中学校教頭 12/25 初任者A B 「第3回研究授業 (道徳)のための研修会②」 講師 徳島市教育委員会 学校教育課人権教育係長 	<ul style="list-style-type: none"> 12/17 第2回連絡協議会
1月	<ul style="list-style-type: none"> 1/ 6 第5回校内研修 「合理的配慮について考える」 講師 徳島県立みなと高等学園教諭  <ul style="list-style-type: none"> 1/ 6 初任者A B 「第3回研究授業 (道徳)のための研修会③」 講師 徳島市教育委員会 学校教育課人権教育係長 1/12 第9回初任者研修推進委員会 1/15 初任者A B 「第3回研究授業 	<ul style="list-style-type: none"> 1/12 調査研究校「初任者研修についてのアンケート」提出 1/29 第2回指導教員(総括担当)検討会議

（道徳）のための研修会④」

講師 徳島市教育委員会

学校教育課人権教育係長

- 1/22 第4回校内初任者研修会
「校区内小学校の道徳 参観授業・質疑」(徳島市新町小学校6年生)
- 1/22 初任者A B 「第3回研究授業
(道徳)のための研修会⑤ 実践授業
・研究協議」

講師 徳島市教育委員会

学校教育課人権教育係長

- 1/27 初任者A B 第3回研究授業・
授業研究会 (道徳)

講師 徳島市教育委員会

学校教育課人権教育係長



2月 • 2/ 5 第10回初任者研修推進委員会

• 2/ 5 調査研究校「調査研究事業実施報告書」提出

3月

• 2/24 第3回連絡協議会
• 研究成果報告の配布

5 調査研究の具体的な内容と成果・課題

視点(1) 初任者研修の校内指導体制の確立と充実について

① 初任者指導のインセンティブが働く校務や学校全体で初任者に関わるための指導・評価の手立て

ア 実際に取り組んだ内容

○学力向上・授業力向上のための授業参観月間

平成27年11月4日(水)～30日(月) ※12月22日(火)まで期間延長

校内研修を兼ね、全教員が他の教員の授業を2回(うち1回は初任者)参観し、参観した教員は必ず、授業者にコメント【補助資料】を活字で伝えることを実施する。その際、①板書、②発問の仕方、③授業形態(生徒の活動)、④書く力をつけるための方策等の中から参観の視点をしぼることとする。参観した教員自身が参観の視点についてのふり返りを行い、次に生かす。

○初任者Aがユニバーサル・デザインの視点を取り入れた研究授業を実践し、全教員が参加することで、初任者以外の教員にも刺激を与える充実した内容を実施する。

イ 成果

○初任者研修を校内研修の中心に位置づけ、全教職員で初任者の教師力を向上させるとともに、ともに成長する教職員組織となるように実施することができた。

○2学期は1学期及び夏季休業日中の校内研修(特別支援教育)の内容を初任者研修の中で次のように実践した。全教員がユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業(どの学級にもいる困難さがある生徒を想定したうえで、より多くの生徒が『わかる・できる』ように指導の工夫や配慮をする。)を取り入れた板書表示(カラー・ユニバーサル・デザインの一つとして、白、黄のみのチョークを使用する。「めあて」「教科書」「ワーク」「資料集」等の黄色の紙に黒文字のラミネートしたカードを毎時間同じ場所に提示する。教科書等のページを書く。本時のめあてがわかるように縦書きにする。)を統一して実践することができた。

ウ 課題

○2学年配属の初任者Bについて、2学期は学年行事(職場体験、修学旅行など)があり、授業研修(実践授業)の時間が取りにくかったことから、校長、教頭、主幹教諭が指導教員(授業研修担当)とともに授業を参観し、研究協議の際、指導・助言を行った。

② 初任者研修推進委員会等の効果的な運用

ア 実際に取り組んだ内容

○毎月1回(1学期4回、2学期4回、3学期2回、計10回実施)、企画委員会後に初任者研修推進委員会を実施する。

イ 成果

○指導教員(総括担当・授業研修担当・一般研修担当)、各学年主任から初任者の現状の聞き取りを行い、進捗状況の確認、課題の整理、今後の予定、次への取り組みの方向性を確認し、現状を把握することができた。

○年間を通して初任者研修推進委員会を計画的に実施することにより、初任者の現状、また、成長を確認することができた。

ウ 課題

○指導教員(授業研修担当)が学力向上推進教師、研修主任を兼ねていたことから、指導教員(総括担当)と企画、調整等で情報交換が密にでき、校内研修を初任者研修に巻き込み、

充実したものとなった。しかし、校内組織にもよるが、初任者と指導教員（教科担当）の所属学年が同じであるほうがOJTの効果が高かったと思われる。

○調査研究事業が初年度のため、校外研修も考慮に入れ、校内研修は当初の計画を軌道修正しながら進めたことから、計画通りには実施することができなかった。

③ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備

ア 実際に取り組んだ内容

○指導教員（総括担当）が配属学年の学年主任と連携を図り、生徒との関わり、授業、学年内での校務についての状況を把握する。

○生徒指導については、配属学年の学年主任を中心とした学年の教員、生徒指導主事があらゆる機会に相談できる体制を整える。

○教科指導については、指導教員、教科主任を中心とした教科部会の教員があらゆる機会に相談できる体制を整える。

イ 成果

○若手教員研修会（若葉の会）や初任者のみの校内初任者研修会を実施することで、不自然（疑問）に思うこと、普段言えないこと、言いづらいことを率直に相談することができた。

○初任者が希望し、即実践につながるようなテーマを外部の有識者や教員、校長、教頭、主幹教諭を講師として、若手教員研修会を実施した。

○管理職、ベテラン・中堅教員が初任者に積極的に声をかけ、悩み等を相談しやすい雰囲気を作ることができた。

○初任者は他の教職員とバランスのとれた人間関係が構築できていることから、初任者研修において常に柔軟な対応ができた。

○仕事以外の場でも良好な人間関係を築き、仕事上の信頼関係を築くことができた。

ウ 課題

○少し講義形式に偏った感がある。しかし、それぞれ専門性をもった外部の有識者や教員、校内の校長、教頭、主幹教諭からの経験やノウハウを聴くことで、初任者を含む若手教員がそれらを吸収し、自分に合ったスタイルで実践するために必要な研修を試みた。

④ その他

ア 実際に取り組んだ内容

○毎職員会議後にコンプライアンス研修を実施し、初任者や若手教職員がコンプライアンス研修を担当することで、より確実にコンプライアンスを身につけることができています。

イ 成果

○コンプライアンス研修を管理職が中心に進めるのではなく、初任者や若手教職員が進行し、寸劇等も交えながら記憶に残る有意義で効果的な研修になった。

ウ 課題

○日々の生徒、保護者、地域住民の厳しい目があることを認識するためには、コンプライアンス研修をやらされるのではなく、職務の遂行、職務以外でも実践できる環境を初任者や若手教職員はもとより、他の教職員もより一層意識づけていくために、次年度も継続したい。

視点(2) 研修等の内容の充実について

① 初任者の年間の勤務、初任者の校務（担任・副担任・TT担当等）を見通した研修内容や指導方法の工夫

ア 実際に取り組んだ内容

- 学校行事，学年行事等における担任，副担任それぞれ立場での校務について，一般研修，及び学年主任を中心とした学年の教員によるOJTによって実施した。
- 校区内小学校6年生の道徳の授業参観をすることで，小・中学校の連携を図り，次年度に入学予定の児童に関する情報を得るとともに，きめ細かい指導方法等について研修した。
- 担任として，朝夕の10分間の短学活を効果的なものとするため，中堅，ベテラン教員による短学活の参観と研修を実施し，実践できるようにする。
- 初任者A Bとも母校に勤務しており，短学活や特別活動等の様々な機会に先輩として愛校心を語り，校長の学校経営方針である「校訓『友愛 自律 互敬 互譲』の実践」の推進に努め，多様な生徒に誠実にきめ細かく対応する。

イ 成果

- 3学期より，初任者Aは道徳（人権教育）の研修を積み重ね，学級経営において，生徒との心のつながりに重点を置くという意識が強く感じられた。また，初任者Bは次年度の学級担任を想定し，実践的な一般研修を実施し，自らのスタイルを作っていこうという意識が強く見られた。初任者A Bとも学ぶ意欲が旺盛であり，学ぼうとする姿勢が尊く，美しい。
- 研究授業（道徳）は，講師の徳島市教育委員会学校教育課人権教育係長による計4回の事前研修と講師の参観による事前の授業研修を実施することができた。また，全教員が初任者A Bのどちらかの研究授業を参観し，全体の研究協議に参加することにより，次年度の人権教育（徳島市人権教育研究大会会場校）に向けて，充実した校内研修とすることができた。
- 朝夕の10分間の短学活を先輩教員から学び，担任としての思いや経験を生徒に語ることで，生徒との人間関係や信頼関係を構築していくための重要性を認識し，研修，実践することができた。

ウ 課題

- 担任の初任者Aに対して，副担任の初任者Bは保護者との関わり，直接的な生徒指導の機会が少なく，知識はあっても実践が伴っておらず，経験の差が生じている。しかしながら，初任者Bは2学期以降，授業力の向上により，授業規律が確立し，目に見えない部分で生徒指導が実践されている。
- 初任者A Bとも，次年度の学級担任として道徳の公開授業をするにあたり，学年団のサポートが重要である。次年度も研究授業等を継続して実施し，研修，経験を積み重ね，学校全体でサポートしていく必要がある。
- 初任者A（担任）は初任者研修で実践してきた学級担任としての学級経営等のスキルを次年度に生かし，スキルアップしているかを検証し，継続してサポートしていく必要がある。初任者B（副担任）は初任者研修で蓄積した学級経営の知識等が即，学級担任として実践できているかを検証し，初任者B（副担任）サポートしていくことが必要である。

② OJTによる研修と直接指導による研修のバランス

ア 実際に取り組んだ内容

- 毎週の授業研修，一般研修は直接指導とし，それ以外についてはOJTによって実施した。生徒指導，学校行事，学年行事等のOJTによって実践したことを一般研修における直接指導でふり返りの機会とした。

イ 成果

- 家庭訪問，三者面談，運動会，文化祭，人権意見発表会，合唱コンクール，職場体験，修

学旅行，定期テスト，通知表など，一般研修の内容を学校行事，学年行事にあわせ，その意義や留意点等を研修した内容を実践し，OJTによって振り返ることができた。

ウ 課題

- 基本的にOJTによって一般研修を所属学年の学年主任を中心とした教員に進めてもらい，1学期から2学期中頃にかけては指導教員（一般研修担当）が一般研修を直接指導し，2学期中頃からはより実践的な内容を指導教員（統括担当）が進めていったが，一般研修の内容と進捗状況について，学年主任と指導教員（総括担当，一般研修担当）との連絡，情報交換がもう少し必要であった。

③ 研修のノウハウの蓄積方法

ア 実際に取り組んだ内容

- 計画書，年間計画，報告書，連絡協議会・学校訪問の資料，研修資料等を紙媒体・電子媒体で保存し，指導教員（総括担当）が管理した。
- 授業研修，一般研修で使用した資料は指導教員（授業研修担当・一般研修担当）と初任者が紙媒体・電子媒体で保存・保管し，次年度の研修のノウハウが蓄積できるようにした。

イ 成果

- 本校教職員の優れた専門性（各教科，特別支援教育，人権教育，特別活動，生徒指導，進路指導，学校教育事務等）を生かし，これらの研修会の講師を快く引き受けてもらい，紙媒体の資料，電子媒体のプレゼンテーションを作成してもらうことができた。
- 授業研修，一般研修で外部の有識者（銀行員，救急救命士，元児童自立支援施設職員等）や教員（大学教授，前教科指導主事の中学校教頭，特別支援学校教諭等）を招聘し，紙媒体だけでなく，実践によるノウハウが蓄積できた。

ウ 課題

- 研修に使用した資料を学校で保管するにあたって，紙媒体とPDF形式による電子媒体で保存することにより，全教職員が必要なときにいつでも，誰もが各自のコンピュータからアクセスし，共有することできるように校務データに保存・保管していくことが効果的であると思われる。

④ その他

ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者Aが特別支援教育コーディネーターや外部の講師（徳島県立みなと高等学園教諭）のサポートを受け，徳島県立徳島視覚支援学校教諭による色覚特性の校内研修を実践するため，ユニバーサル・デザインの視点の一つを取り入れた社会科の研究授業を実施する。
- 特別支援教育コーディネーターが教職員向けに出している「特別支援教育コーディネーターだより」【補助資料】をベースとして本校の校内研修，初任者研修等を進めている。

イ 成果

- どの学級にもいる学習に対して困難さのある生徒を想定したうえで，より多くの生徒が『わかる・できる』ように指導の工夫や配慮をするため，板書表示を統一し，全教職員が実践できている。

ウ 課題

- 本校がこれまで培ってきた特別支援教育の研修・実践をもとに，初任者を含む若手教員はもとより，全教職員がユニバーサル・デザインの視点を取り入れた授業を広げていく必要がある。それには，学校をあげて取り組み，校内研修を巻き込んでいく調査研究事業による初任者研修は効果的であり，継続していく必要がある。

○現在，ユニバーサル・デザインの視点を取り入れた授業を全教員が実践できている。今後はどの生徒も『わかる・できる』授業の実践と授業での「本時のふり返し」の研修を進め、実践していく必要がある。

※ 本報告書のための補助資料がある場合は，別途添付すること。

様式 2

平成 27 年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）
実施報告書

1 調査研究校の基礎情報

調査研究実施校名		藍住町立藍住中学校
校長名	(ふりがな) 氏名	とよた だいのすけ 豊田 大之介
連絡担当者	職名 (ふりがな) 氏名 電話番号	教諭 みくら ゆきお 三倉 幸夫 (088) 692-2505

2 調査研究校の状況（平成 28 年 1 月 1 日現在）

常勤教員数	41人	うち、学級担任外教員数(20人)
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務 人 ※週 日勤務 人
非常勤教員数	0人	
学級数	19(21)学級	
2年目教員数	2人	
3年目教員数	2人	
初任者の属性等 (所属・校務等)	初任者(A)	3年3組担任，理科，生徒会(副)， 視聴覚教育，学年ホームページ 女子バスケットボール部(主)
	初任者(B)	2年2組副担任，2学期より2年4 組担任が病休のため担任を代理 英語科担当，拾得物，生徒会(副)， 小中連携，バレーボール部(副)
指導教員の属性等 (所属・校務等)	①指導教員(総括担当)	教務主任，学力向上推進員， 初任者Bの学年の数学科担当 ソフトテニス部(主)
	○初任者Aの	
	②指導教員(授業研修担当)	3年特別支援学級たんぼぼ担任 特別支援教育，科学部(主)
	③指導教員(一般研修担当)	3学年主任(指導教諭)，学年会計， 初任者Aの学級の国語科担当， 女子バドミントン部(副)

	○初任者Bの	
	④指導教員(授業研修担当)	2年2組担任, 福祉教育 女子卓球部(副)
	⑤指導教員(一般研修担当)	2学年主任, 学年会計, 人権教育 初任者Bの学年の社会科担当 男女柔道部(主)

3 指導体制等

3-A) 校内の指導体制

(1) 役割

職名等	役割分担
校長	○初任者研修推進の総括 ○初任者研修に係る校務の決定 ○初任者研修推進委員会の委員 ○計画に基づく一般研修の指導等
副校長・教頭	○指導体制整備・校務立案 ○初任者研修関係者への指導・助言 ○初任者研修推進委員会の委員 ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導等
指導教員 (総括担当)	○県教育委員会や町教育委員会との連絡調整 ○初任者研修全体のコーディネーター ○他の校内指導教員(授業研修担当・一般研修担当)と連携して初任者研修の全体計画を作成 ○初任者研修推進委員会の実施
指導教員 (授業研修担当)	○授業研修のコーディネーター ○授業研修の年間計画の作成 ○授業研修の指導・助言等
指導教員 (一般研修担当)	○一般研修のコーディネーター ○一般研修の年間計画の作成 ○一般研修の指導・助言等
その他の主事・主任	○校務内容についての一般研修や授業研修の指導

その他の教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導 ○各自の経験に基づいた指導・助言等 ○定期的に情報交換会に参加（若手教員の一部）
---------	--

(2) 初任者研修推進委員会

① 構成員

- 校長，教頭（2名），
- 教務主任（総括担当指導教員）
- 初任者Aの 一般研修担当指導教員（3年学年主任）
- 授業研修担当指導教員（特別支援教育コーディネーター）
- 初任者Bの 一般研修担当指導教員（2年学年主任）
- 授業研修担当指導教員（福祉ボランティア教育主任）
- 初任者A，初任者B（計10名）

- ② 開催時期
- ・1学期 3回（4月，5月，7月）
 - ・2学期 3回（9月，11月，12月）
 - ・3学期 2回（1月，3月）
- ※初任者は，4回参加（4月，7月，12月，3月）

- ③ 協議内容
- ・初任者研修の方法に関する説明
 - ・校内での初任者研修の計画立案
 - ・研修内容の進捗状況についての情報交換
 - ・初任者の近況についての把握
 - ・研究授業等の連絡と調整

(3) 若手教員情報交換会「藍愛クラブ」

- ① 構成員
- ・初任者（2名）
- 計7名
- ・採用されて2年目の教員（2名），3年目の教員（1名）
 - ・採用されて2校目の教員（2名）
- ② 開催時期
- ・各学期1回
- ③ 協議内容
- ・学級経営，部活動経営についての情報交換
 - ・学校行事や校務等についての情報交換
 - ・生徒についての情報交換と生徒指導についての研修

(4) その他配慮した指導体制

- ① 初任者それぞれについて，授業研修担当指導教員，一般研修担当指導教員の両方を，初任者と同じ学年配属にする。
- ② 初任者それぞれについて，一般研修担当指導教員は初任者の配属学年主任が担当する。
- ③ 初任者それぞれについて，初任者と同じ専門教科の教師を初任者と同じ学年配属にして，授業研修担当指導教員を務める。
- ④ 職員室の座席について
- ・初任者の席を学年団の中央の席に配置する。
 - ・初任者の席の両隣りに，一般研修担当指導教員（初任者配属学年主任）と授業研修担当指導教員を配置する。

⑤ 初任者Aの担任する学級について

- ・ベテランの授業研修担当指導教員が週1時間理科を担当する。
- ・一般研修指導教員（学年主任）が週3時間国語科を担当する。

⑥ 初任者B（2年2組副担任）が2学期から担任する学級（2年4組）について

- ・初任者Bと年齢差が少ない授業研修担当指導教員が週1時間英語科を担当する。
- ・一般研修指導教員（学年主任）が週3時間社会科を担当する。

3-B) 初任者の勤務内容等における配慮事項

① 初任者Aの理科の授業について

- ・初任者の理科の授業は、所属学年（3年生）だけを担当する。
- ・授業担当指導教員は、初任者Aの勤務の負担等を考慮しながら研修を進める。

② 初任者B（副担任）の学級経営の業務分担について

- ・2年2組の学級担任が朝の交通立哨の日に初任者Bが朝の学級指導を行ったり、2年2組の担任と初任者B（副担任）が時々指導の役割を交替したりして、初任者Bが2年2組で研究授業などの研修を進めやすくなるよう配慮する。
- ・初任者Bと生徒との関係、初任者Bの指導力などを観察し、学年主任を含めて相談しながら、年間を通して段階的に業務分担を変更する。
- ・2年4組担任代理となった2学期以降は、初任者Bと生徒の関係等について、学年主任を中心に学年団全員で細かい配慮をしながら観察する。
- ・2年4組担任代理を務める初任者Bの生徒指導については、生徒や保護者との関係等について初任者Bと直接話したり、学年主任を中心に学年団で相談したりしながら、初任者Bの業務負担やストレスが大きくなるよう配慮する。

4 調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 (初任者研修に係る取組状況の記録)	実施状況 (徳島県教育委員会実施分)
3月		・ 3/25 調査研究事業説明会
4月	・ 4/15 第1回初任者研修推進委員会	・ 4/30 調査研究事業実施計画書 提出
5月	・ 5/21 第2回初任者研修推進委員会	・ 5/29 第1回連絡協議会
6月	・ 6/10 初任者研修研究授業 (初任者A 道徳) ・ 6/22 第1回若手教員情報交換会	
7月	・ 7/ 6 初任者研修研究授業 (初任者B 英語) ・ 7/15 第3回初任者研修推進委員会	・ 7/14 学校訪問①

8月		
9月	・ 9/18 第4回初任者研修推進委員会	
10月	・ 10/20 初任者研修研究授業 (初任者A 理科) ・ 10/30 第2回若手教員情報交換会	・ 10/27 先進校視察(中)(静岡県城山中)
11月	・ 11/13 初任者研修研究授業 (初任者B 道徳) ・ 11/19 第5回初任者研修推進委員会	・ 11/27 学校訪問②
12月	・ 12/ 9 第6回初任者研修推進委員会	・ 12/17 第2回連絡協議会
1月	・ 1/18 第7回初任者研修推進委員会	・ 1/29 第2回検討会議
2月	・ 2/ 8 第3回若手教員情報交換会	・ 2/ 5 調査研究事業実施報告書 提出 ・ 2/24 第3回連絡協議会
3月	・ 3/ 4 第8回初任者研修推進委員会	・ 研究成果報告の配布

5 調査研究の具体的内容と成果・課題

視点(1) 初任者研修の校内指導体制の確立と充実について

① 初任者研修のインセンティブが働く校務や学校全体で初任者に関わるための指導・評価の手立て

ア 実際に取り組んだ内容

○ 今年度配属の初任者2名の専門教科が5教科(初任者A-3学年配属・理科, 初任者B-2学年配属・英語)であったため, 初任者の授業担当指導教員を初任者と同じ学年に配属した。(初任者Aの授業担当指導教員-3学年配属, 初任者Bの授業担当指導教員-2学年配属)

イ 成果

○ 初任者と授業担当指導教員が同学年の配属で, 生徒指導面で情報交換を密にとることができ, 「共に育てていく生徒への授業を共に研修していく」感覚で, 授業研修を進めていくことができた。

○ 初任者と授業研修担当教員が, 毎日の授業内容を互いに把握し合い, 共通した授業内容について指導方法等を考えることができたため, 授業担当指導教員にとっても有益感があった。また, 初任者と授業研修担当教員のどちらかが出張・年休等でいない場合でも, 可能な時は学級に入って授業を進めることができた。生徒たちにとって, 2人が同学年に所属していることで「自分たちの理科(英語)の先生」という感覚で違和感なく授業することができた。

- 初任者と授業担当指導教員が、毎朝の学年の打ち合わせで一緒に学年全体の様子や生徒一人ひとりの細部に至るまでの情報について共有できているので、示範授業や実践授業の中でも互いに遠慮することなく生徒指導を行うことができ、専門教科で行うティームティーチングの感覚で授業を行うこともできた。



- 初任者Aの授業研修担当指導教員は50歳代のベテラン教員である。その指導教員は特別支援学級を担当をしているのだが、特別支援学級の生徒の進路や生徒指導のことで悩みや相談したいことがあっても、学年団の中で担任は一人しかいないため、相談しにくい面があった。指導教員と初任者Aが授業研修について協議するだけでなく、同じ3年団の学級担任として初任者から生徒指導のことで相談したり進路情報について交換したりすることを通して、授業担当指導教員からも困っていることを共有することで、年齢や立場に関係なく気軽に抱えている問題を話しやすくなり、ベテラン教員が特別支援学級の担任としての悩みなどを気軽に話せるようになった。
- 初任者Bの授業研修担当指導教員は、初任者Bとは同性で年齢差もあまり大きくない。謙虚な性格で、年度始めは初任者研修の指導教員が務まるか不安を抱いていた。授業研修担当指導教員が担任する学級は、学年の中で最も落ち着きがあり、授業も集中でき、放課後の生徒指導も比較的少ない。初任者Bと示範授業、実践授業、研究協議を重ねていく中で初任者Bとの人間関係が深まり、初任者Bから授業の丁寧さなどを認められ、また初任者Bの授業のよさや頑張りを認めながら、互いに切磋琢磨していく雰囲気が出てきた。
- 初任者と同学年配属の授業研修指導教員が行う授業研修では、初任者の実践授業の中で指導教員が生徒を指導しやすいだけでなく、指導教員の示範授業においても初任者が個別指導を行うなどして、実践的なティームティーチングを行うことができ、生徒指導の負担が半減することでインセンティブが高まった。
- 昨年度に比べて今年度は、授業を他の教員に積極的に公開して互いに学び合う雰囲気が広がってきた。

ウ 課題

- 初任者と授業研修担当指導教員の授業研修については、計画に沿って年間通して行うことができたが、初任者の授業のゆとりも少なく、指導教員以外の他の教員の授業を参観して学ぶ機会が十分でなかった。今後、全教員の授業力向上に向けて、さらに授業研修を校内全体に広げていく必要がある。校内の授業研修と初任者研修の授業研修をうまく関連づけながら、年間通して取り組んでいきたい。

ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者 A, B の一般研修担当指導教員を、初任者の所属学年の学年主任が務めている。毎朝、初任者に視点を当てて学年団の打ち合わせを行っている。昨年度に引き続いて、学年主任と初任者が職員室での座席を隣り合わせることによって、職員室の座席をそのまま利用して研修できる体制をとった。他のベテラン教員や中堅教員も気づいた点があればいつでもすぐ声をかけるなどして積極的に関わった。昨年度の一般研修では、校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、養護教諭、栄養教諭、事務室長、用務員が初任者に一般研修を行ったが、今年度は、それに加えて、道德教育推進教師、情報教育担当も初任者の一般研修に関わった。



イ 成果

- 本校の職員組織は、昨年度ほどではないが、他校と比べると若手教員が多い。授業研修担当教員以外の教員が初任者に授業を参観させたり、主要な校務や違った角度から学校全体を視る一般研修を通して、初任者だけでなく若手教員全員を育てていく意識を高めることができた。

ウ 課題

- 初任者の専門教科だけでなく他教科についても参観して広く違った視点から専門教科の授業を振り返ってみたり、さらに多くの職員からいろいろな校務について学ぶ一般研修を行ったりする機会を増やすことによって、学校全体で初任者に関わり、初任者を評価し伸ばしていくことができるのではないかと思う。

② 初任者研修推進委員会等の効果的な運用

ア 実際に取り組んだ内容

- 1学期3回（5月，6月，7月），2学期3回（9月，11月，12月），3学期2回（2月，3月）の計8回，初任者研修推進委員会を開いた。
- 学期末の初任者研修推進委員会（7月，12月，3月）には初任者も参加し，学期末の反省を述べるとともに，提出する関係書類について一緒に確認した。

イ 成果

- 年度当初に予定した各月の職員会議の後に推進委員会を開くことによって，無理なく日

程を組むことができ、時間短縮につなげることができた。

- 各学期末の3回の推進委員会（7月、12月、3月）については、県教育委員会への提出書類について、校内指導教員と初任者が一緒に確認することができ、効果的であった。また、昨年度は毎回初任者本人が入って初任者研修推進委員会を行ったが、今年度は初任者本人は会に加わらずに行った。初任者の近況について率直な意見交換ができ、各立場から初任者にどのように声をかけて関わっていくか方向性を出すことができた。

ウ 課題

- 初任者の近況や頑張りについて自由に意見を交換しながら協議することはできたが、今年度も昨年度の反省を十分生かすことができず、初任者の成長や活躍についての報告に終了してしまう面があった。初任者が困っていることや悩んでいることについて、初任者から直接聞いたり、日頃の会話の中から探り出したりしながら、推進委員会で指導助言の方向性等について協議し、次の研修計画を見直しながら、研修をより充実させていくことの必要性を改めて感じた。

③ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備

ア 実際に取り組んだ内容

- 毎日、一般研修担当指導教員（学年主任）と初任者の2人が職員室でいられる時間帯を利用して、一般研修担当指導教員（学年主任）から初任者に、学級の雰囲気や気懸かりな生徒の様子について情報交換を行い、生徒指導面を中心に相談にのったり関わったりする体制をつくった。

イ 成果

- 初任者が担任する学級や授業、部活動の中で、生徒間でのトラブル、対教師に対する生徒の不適切な言動等がないか、いち早くキャッチし、学級指導や個別指導が早急に必要場面でもどのように指導していくことが最善か。一般研修担当指導教員（学年主任）と初任者が、年間通して毎日、報告・連絡・相談をしながら生徒指導についての研修をOJTで行うことができた。また、保護者への連絡のタイミングや伝え方等についても細かいところまで打ち合わせをして進めることができた。初任者は、週2時間の一般研修の日に関係なく、早いタイミングで相談し見通しを立てて学級運営や部活経営に取り組むことができた。

ウ 課題

- 初任者が実際に行う生徒指導を行う上で、初任者がその方法を自分で考え、検討し、学年主任や管理職に報告・相談しながら修正を加え、見通しを持って指導にあたっていく実践力が必要である。一般研修担当指導教員（学年主任）、初任者の週あたりの授業数が多く、時間的余裕がない時は、問題に対しての初任者のとらえ方やそれに対する指導の方法等について丁寧に聞いてあげながら研修させることができない時もあった。生徒たちの学校生活の中で日々起こる生徒指導について、見通しを持って対応していく実践力をどうつけていくかが今後の課題である。

視点(2) 研修等の内容の充実について

- ① 初任者の年間の勤務、初任者の校務（担任・副担任・TT担当等）を見通した研修内容や指導方法の工夫

◇初任者を段階的に成長させていく指導の工夫

ア 実際に取り組んだ内容

- 一般研修では、学級を担任する初任者Aは、学級経営、学校（学年）行事、部活動経営において研修していくべき内容について、一般研修担当指導教員（学年主任）が年間行事計画にそって計画し、中心となって指導した。
- 初任者Bは2年2組の学級副担任として新年度をスタートした。できるだけ学級担任と共に学級活動等に入って共に指導しながら、学級担任として配慮すべきことや重点的な指導内容等を横から学び取ったり、一般研修で担当指導教員（学年主任）から来年度の学級担任を念頭に置いて、学級経営、学校（学年）行事、部活動経営等について研修した。
- 初任者Bは、2学期から体調を崩して病休となった担任の代わりに、2年4組の学級担任を務めることになった。初任者Bは、年度途中から学級担任の代理を務めるという難しい役割を任された。学年主任（一般研修担当指導教員）は、初任者Bが2年4組の生徒たちと無理せず時間をかけながら良好な信頼関係を築き上げていけるよう、初任者Bや学年団の職員から情報交換しながら日々のOJTによる研修で助言した。また、学年団のワークルーム（教室の間のオープンスペース）で学年団の教員全員が毎日毎時間当番制で生徒の言動を観察して指導できる体制をとり、生徒についての情報交換をしたり生徒指導を蔭からサポートしたりするなど、学年団の教員全員が学級担任となった初任者Bをサポートできるようにした。
- 授業研修では、学期によってテーマを決めながら指導した。1学期は、授業時間の配分、発問のしかた、板書の工夫、ワークシート作成の配慮事項など、授業をする上での基本的な内容を中心に繰り返し確認した。2学期以降は、授業内容に応じて研修のテーマを絞って協議した。3学期は、授業のあらゆる要素をすべて考えながら初任者が計画、準備して行う授業について研修を重ねている。

イ 成果

- 学級経営や部活動経営について一般研修の中で学ぶだけでなく、一般研修担当指導教員（学年主任）や、管理職、同学年配属の保健体育科主任のベテラン教師など、まわりの先輩教師から初任者Aに機会をとらえて情報交換したり、初任者の頑張りを認めたり、また失敗体験について世代を超えて共感し合ったりしたことが、先輩教師と初任者Aの距離を縮め、初任者がやり甲斐を持って学級経営や部活動経営に取り組めるエネルギーになっていたように感じる。
- 学期や授業内容によってテーマを決めて授業研修をすることによって、初任者が留意事項をはっきりと意識して授業の準備をすることができ、授業後の研究協議の意見交換の内容をより具体的なものにすることができた。
- テスト問題作成にあたり、1学期は、出題の目的を確認しながら、出題方法、問題文の推敲、レイアウト等について、初任者から意見を聞きながら詳しく指導した。2学期は、1学期の研修で学んだことを生かし、初任者に任せて作成させ、それについてじっくりと協議した。初任者は評価を常に念頭に置いて日々の授業の目的を考え、授業に反映させていくことの大切さを学ぶことができた。数回のテスト作成の研修を通して、初任者が責任を持って評価の対象物としてよりよいものを作成できるよう、研修を進めることができた。
- 年度途中から学級担任を任された初任者Bは、まわりの心配を他所に、2年4組の生徒たちとの関係を着実に深めっていった。任された学級の生徒について他の先輩教師と要領

よく情報交換して、生徒の個性を尊重して、的を射た生徒指導をすることができている。4月当初の家庭訪問を経験していないため、保護者との面識がほとんど無く、保護者との連携の面で手探りの状態から出発したにもかかわらず、生徒の問題行動の後の保護者連絡も早く適切で、家庭での生徒と保護者の会話などから信頼を築き上げている面さえ感じられた。生徒たちから初任者Bに対する見方についても、初任者Bの指導に対する反応が、学級担任になる前後で違ってきている。「学級副担任の本校勤務1年目で初任者」から、「自分たちの傍で自分たちをよく観てくれ叱ってもらえる頼りになる学級担任」というイメージになってきているのではないかと思われる。初任者Bは、前向きで大らかな人柄で生徒に愛情を持って遠慮せず接することができるため、生徒たちも初任者Bからの愛情をストレートに受け止めることができたのではないかと推察する。2学期4か月の間には、生徒の問題行動があって学年団で保護者対応を行うなどのことも何度もあった。学期末には通知票の所見の書き方や三者面談での留意点について学年主任（一般研修担当指導教員）から研修するなどして、2学期を無事立派に学級担任として生き生きとこなすことができた。特に、12月の合唱コンクールに向けては、初任者Bと生徒たちが気持ちを一つにして頑張り、学年最優秀賞を獲ることもできた。合唱コンクールでの学級紹介では、1学期までの担任への生徒の思いを前面に出しながら、今、初任者Bと共に頑張っている充実感について、参観の保護者や教師に熱く伝える姿が見られた。事前に初任者Bが生徒の原稿文を推敲・指導していたことを考えると、初任者Bの人間的な優しさが伝わってきた。

ウ 課題

- 初任者にとって、初任者研修のある採用されて最初の1年間で今後授業力をつけていく上で特に大切である。今年度、初任者に、専門教科に限らず授業研修担当指導教員以外の先輩教師の授業をできるだけ多く参観して学ばせることができなかった。採用1年目の初任者だけでなく、未だ採用されていない若手教員もいっしょに先輩教員のいろいろな授業を参観して学ぶことができるよう、校内の授業研修の計画の段階で、検討したい。

◇学年がサポートして取り組んだ学年全体学習の研究授業

ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者Bは、合同教室（学年団の生徒全員を収容可能な階段教室）で学年全体学習の形態で、道徳（人権学習）の研究授業を行った。一般研修担当指導教員（学年主任）が、指導案の書き方、発問のしかた、発言のさせ方や聞かせ方などについて具体的に詳しく指導し、初任者Bからの質問にも丁寧に答えながら、授業に向けての研修を行った。授業の前には学年主任を中心に発言しやすい雰囲気をつくり、授業では、初任者から距離をおいたポジションから初任者を見守り、困ったときはいつでも横からサポートできる体制をとった。他学級を含め、学年の生徒219名の前で学年全体学習の研究授業を行い、それを全教員で参観し、授業研究会で全学年の教員で活発な協議を行った。

イ 成果

- 初任者Bが行った研究授業で、2年4組のたくさんの生徒たちが、マイクを持って自分の思いを学年の生徒たちを前に発言することができた。2年4組の後方で授業を参観した他の学級の生徒たちも、各学級の担任といっしょにそれらの発言を真剣に聞いて受け止めることができた。一般研修担当指導教員（学年主任）、他学級の担任など、学年団の先輩教



師のバックアップのもとで、初任者Bは落ち着いて堂々とした態度で授業を行うことができ、達成感を味わうことができた。

- 学年全体の生徒たちを前に全学年の教員が参観する研究授業を、学年団を代表して初任者が研究授業を行うことは、初任者にとって負担が大きいかもしれない。しかし、研究授業に向けて、学年主任（一般研修担当指導教員）を中心に、学年団全教員が協力して、ホワイトボードの準備・掲示、生徒が発言しやすい雰囲気づくりなどをサポートし、初任者Bを育てるために学年団の教員の絆を深める機会になった。
- 管理職や、校内指導教員だけでなく、学校全体で初任者Bの学年全体学習で行う研究授業を参観することで、全教員が初任者の頑張りを共感し、刺激をもらうことができた。授業研究会の場で初任者Bや生徒たちのよかった点について多くの先輩教師が発言し、学校全体で人権学習に取り組んでいく雰囲気が高まった。

ウ 課題

- 初任者は、教科の授業研修は年間を通して系統的に行うことができているが、道徳、学級活動、総合的な学習の時間については、系統的に授業研修担当教員や一般研修担当教員と研修していくことが難しい。初任者の道徳教育等の授業研修をどのように計画し、初任者や学級担任をしている若手教員が展望をもって授業を推し進めていけるよう、学年団で意思疎通をどのように図っていくかが課題である。

◇生徒の実態から学ぶ生徒指導等の研修

ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者Aは助教諭を含め本校6年である。昨年度まで第3学年の副担任を続けて務めてきたおり、コンピュータが得意なこともあって、進学関係の事務処理や本校近隣の進学に関する情報に詳しい。部活動経営についても、女子バスケットボール部の主の顧問を続けて務め、実績を残してきた。しかし、学級担任を務めることは採用された今年度が初めての経験であった。進路選択を控える第3学年の担任としては、義務教育最終学年として、学級経営をどのように行い、生徒たちを卒業させるかが重要である。4月から2学期前半までは、生徒との信頼関係の構築や学級指導、生徒指導の方法を中心に研修した。職員室で隣りに座る一般研修担当指導教員（学年主任）から生徒についての情報をOJTによる研修の中で交換しながら、学級目標達成に向けて学級指導や生徒指導の方法を具体的に研修してきた。生徒一人ひとりに関わりながら、生徒をよく理解し、効果的な生徒指導の方法を

研修を通して探り続けてきた。心が不安定になる3学期に、昨年度まで培ってきた進学事務等についての情報や、今年度OJTによる研修を生かしながら行ってきた学級経営を生かして、初任者Aが生徒たちの進路が保障できるよう、学年団で協力してサポートした。

イ 成果

- 初任者Aは、担任する3年3組の生徒たちに、常に落ち着いた粘り強い関わりができた。生徒への声のかけ方やサポートの仕方について実践力をつけてきている。学習指導の面でも、初任者Aのところへ放課後質問に来たり、月を重ねるごとに授業を大切にしたりするなどの変容が見られた。自分を大切にして、進路選択に向けて家庭学習にも時間を惜しんで努力する生徒が増えてきた。
- 初任者Aは、3年団所属で同性の大学新卒副担任助教諭に対し、目を配らせながらアドバイスのことが増えてきた。昨年度まで経験してきた第3学年副担任の校務の内容を振り返り、副担任に次の段取りを教えたり、学級担任としての立場から協力してほしいことを伝えたりし始めている。学年主任だけでなく、ベテラン教師も連携をとって機動力があり、あらゆる年齢層から気づき動ける学年団へと活性化してきている。

ウ 課題

- 第3学年は、生徒に確かな学力をつけさせるため、定期テストに加えて毎月実力テストを実施する。今年度の初任者Aは助教諭としての経験も重ねており、進学事務についても熟知しているため、無難にこなすことができた。しかし、国語等の5教科が専門の初任者が第3学年の学級担任を初めて務め、部活動を主の立場で担当する場合は、学級担任として学級指導、進路指導、進路決定に向けての三者面談等があり、毎日の放課後や土曜日曜の部活動の指導、テスト問題作成と採点など、負担が大きいのではないかと感じた。

◇元指導主事の管理職から学ぶOJTによる授業研修

ア 実際に取り組んだ内容

- 本校の教頭は県総合教育センター理科教育の元指導主事である。教頭が初任者Aの学級の隣り学級（3年2組）を担当し、初任者Aの授業研修について、同学年配属の授業研修担当指導教員からだけでなく、教頭からも機会をとらえて指導助言を行った。

イ 成果

- 初任者Aは、授業研修担当指導教員と行う示範授業、実践授業、研究協議だけでなく、疑問点を教頭に質問したり、ワンポイントアドバイスをもらったりすることにより、科学的思考力や授業のスキルなどについて多面的に学び続けることができた。「力とエネルギー」の単元では実験装置を共同して工夫し、測定結果が正しく出るように指導を受けた。さらに、思考力・表現力・判断力を観るテスト問題作成についても詳しく助言を受けることができた。

ウ 課題

- 初任者研修が終了して2年目以降は、他の教師の授業を参観して学ぶ機会が少なくなる。初任者研修が行われる1年間で、専門教科の各学年のあらゆる単元について、同じ学校で務めるさらに多くの先輩教師から授業を参加して学ぶ機会があった方がよかった。また、初任者だけでなく、若手教員が同年代の教師の授業を観て刺激しあったり、中堅やベテラン教師の授業から学んだりする機会を増やし、あらゆる年齢層の教員が互いに新しい視点を持って教材研究できるように、研修体制を整えていきたい。

② OJTによる研修と直接指導による研修のバランス

◇初任者にわかりやすい打ち合わせづくり

ア 実際に取り組んだ内容

- 毎朝、全体での職員朝会の後、学年団での打合せを初任者がわかりやすいように行い、疑問な点がある場合は、隣座席の一般研修担当教員（学年主任）からOJTによる研修ですぐ教えてもらえる体制をとった。

イ 成果

- 学年団の打合せ内容について、初任者に疑問点があればすぐ質問することができ、学年主任から補足説明したり、時には他の教員も質問に絡みながら確認したりすることで、初任者は自信と見通しを持って後の勤務がしやすくなっていた。初任者だけでなく、わからない点などが多い本校1年目の教員にとってもよい効果をもたらした。特に、初任者A所属の第3学年の進学関係については、初任者や若手教員からの質問で細かい点まで詰めることができ、よかった。

ウ 課題

- 連絡事項が多い日などについては、朝の学年団打合せの後、その後の日程のこともあり、初任者にとっては質問しづらく、疑問を抱えたまま学級に行く日もあったかもしれない。
- 各学年団、学年主任以外全員が交代制で朝の交通立哨を行うため、朝の打合せに参加できず、打合せは学年主任から立哨後に行っている。学級担任を務める初任者Aにとっては、毎日同じルーティーンとして、学年団の中でいっしょに打合せをして教室に向かえる方が勤務しやすいかもしれない。

◇行事等の前に行う直接指導

ア 実際に取り組んだ内容

- 体育祭（5月）、人権問題意見発表会（6月）、文化祭（9月）など、事前に職員会議等で校務担当から計画案が出される学校行事については、事前に一般研修として直接指導による確認や研修を行った。また、学期末評価などの基準が示されている内容については、事前に授業研修担当指導教員から直接指導でいっしょに確認し、評価した後、OJTによる研修として協議し、助言してきた。

イ 成果

- 事前に、直接指導による研修を行うことによって、一般研修担当教員（学年主任）から、資料に目を通しながら留意点などについて指導助言することによって、初任者は実際の場面をイメージしやすくなり、初任者は安心して業務に向かうことができた。また、事前の直接指導を想起して業務にあたったので、OJTによる事後研修での指導助言の内容について初任者は理解しやすかったようである。

ウ 課題

- 行事や評価に向けての事前の一般研修、授業研修については、決められた時間の枠にとられず、初任者に若手教員、本校1年目教員を加えるなど、事前に声をかけて一緒に行う方がより効率的であったかもしれない。

◇学年で取り組んだ環境整備

ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者A，初任者Bの教室環境の整備を，学年団全員で歩調を合わせてOJTによる研修として行った。直接指導による研修でも，一般研修担当指導教員（学年主任）から，ユニバーサルデザインを意識した掲示や配慮すべき内容を研修した。

イ 成果

- 一般研修担当指導教員（学年主任）が初任者の環境整備の研修を学年団全員に広げ，協力して教室の環境整備に取り組んだ。初任者の教室環境に刺激を受けながら，全学級が時期や行事を考えた教室環境に変えることができた。また，全学級が協力して取り組む中に副担任の教員も加わって協力し，学年団の協働する雰囲気づくりに役立った。

ウ 課題

- 年間一度になってしまったが，教室の環境整備は時期や行事によって何度も掲示物を変えていく必要がある。初任者が行う授業参観や他教室の掲示を観て学ぶ機会を増やし，年間通してタイミングよく環境整備ができるよう，計画を見直していきたい。

③ 研修のノウハウの蓄積方法

ア 実際に取り組んだ内容

- 計画書，年間計画，報告書等は紙媒体・電子媒体で保存し，総括担当指導教員が管理する。所感等，初任者の今後の教職キャリアに関係する記載物については紙媒体のみで保存し，総括担当指導教員が管理した。
- 昨年度まで，一般研修，授業研修で使用した資料等は指導教員と初任者が保存し，次年度は，必要に応じて前年度の指導教員や初任者に問い合わせていた。今年度は，それらを学校で一括して保管し，印刷した紙媒体で保管することにした。

イ 成果

- 今年度は，校内指導教員4名（一般研修担当指導教員2名，授業研修担当指導教員2名）のうち3名は，初任者研修指導教員を初めて務めた。数年続けての年間計画を保管することによって，本年度もそれらを参考にして，訂正を加えることによって，計画書を作成しやすかった。初任者の反応等によって報告書の記載は当然変わってくるが，蓄積された報告書の書き方については，保管したものを参考にして書きやすかった。
- 一般研修，授業研修で使用した資料等について，来年度は保管場所からすぐ手にできるようになった。今後も，年度ごとに1冊のものとして整理していくことで，誰が指導教員になっても参考になるものに蓄積していきたい。

ウ 課題

- 一般研修で使用する資料については，今後も参考にしやすいと思う。しかし中学校の場合は，年度によって初任者の教科が異なるため，授業研修や実際の授業で使用するワークシート等については同一教科でないと参考にしにくい。県総合教育センター等で一括して電子媒体として集め，それをネットワークからいつでも取り出し，使用できるような保管システムが確立すると，初任者の授業研修がよりしやすく効率的になるのではないかと思われる。